



<VOL219.2026.3>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-19-22 019-658-8773 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」
2月の聖句 イザヤ書 2章6節



「剣を鍬に打ち直せ。槍を鎌に打ち直せ。国は国に向かって剣をあげず、もはや戦争を学ばない。」

		「主題」
国際会長	エドワード・オン	「信念、愛、行動」
アジア太平洋地域会長	田上 正	「信念と愛をもって行動しよう」
東日本区理事	山下 真	「ワイズのらしさ再発見」
北東部長	三田 庸平(もりおか)	「ユースと共に明るい未来を」
もりおかクラブ会長	長岡 正彦	「リーダーの志を、全力で支えよう」

会長	長岡 正彦
副会長	山口 貴伸
書記	濱塚 有史
会計	三田 庸平
副会計	大関 靖二
担当主事	中村 渉 (ちゃん)
メネット	井上 優子

2026年4月定例会

日時、場所 4月11日(第二土曜日) アイーナ団体活動室2
18時～20時

例会費 1,000円

卓話 福島スタディツアーに行ってきました。

会長巻頭挨拶



みなさま、3月はお別れの季節。どんなお別れがありましたか？、卒業したリーダー達とのお別れ、リーダー達は YMCA での経験を生かして間違いなく社会で活躍してくれるでしょう。私は、同僚の社員が不慮の事故で亡くなるというお別れがありました。15年前の大震災では、理不尽に家族とのお別れがありました。

これが最後と解っていたら、あの時あんな事が出来た、あの時こうしていればよかった。1秒先の未来はだれにもわかりません。だから、今を悔いのないように生きて行きたい。そんな気持ちになっています。

そして、迎える4月は出会いの季節です。どんな出会いがあるか、わくわくドキドキします。私の頭の中は中島みゆきの「時代」が渦巻いています。廻る、廻るよ時代は廻る。喜び悲しみ繰り返す。あと何回別れと出会いを繰り返すのでしょうか。

寂しいお知らせが1つ。梶原メンの退会がきました。仕事で盛岡を離れるとか。残念です。なぜ私に言わないのか謎です。

3定例会の報告

3月20日(土)、アイーナで開催。参加者、長岡、三田、濱塚、加藤、中村、(敬称略)以上5名。 ゲスト、川渕映子さん(富山ワイズメンズクラブ)、高橋創さん(ピン)、田口佳樹さん(ジジモン)、竹知桃花さん(サン)、巢内咲良さん(サム)、佐賀遥斗さん(スター)、野崎花さん(はなまる)以上7名、全13名で開催されました。

この日、第6回盛岡 YMCA 大会が開催され、多くのもりおかワズが参加しましたが、その後の例会に参加したのは5名でした。さすがに丸1日参加し続けるのは体力的に厳しいか、夜の予定があったか、高齢の会員が多いためいたしかたありません。

卓話は、濱塚メンの YMCA の歴史から福島 YMCA 設立までの流れをお話いただきました。設立の機運が高まり、もう少しと言う所でコロナ禍が襲い、4年も設立がお預けになったこと。でも具体的な進展が昨年から見られもう少しと言う所まで来たようです。福島スタディツアーが29日から31日まで開催される案内もいただき、福島の実状を理解するためにみなさん福島へいきましょう。

盛岡 YMCA 大会のゲストスピーカーで招待した富山ワイズの川渕映子ウィメンも参加していただきました。そしてリーダーゲストは6名。「はなまる」はOGです。昨年11月以来、久々に会えて嬉しかったです。さらに加藤メンからオーガニック雫石の活動報告会が28日に開催される事の案内がありました。リーダー会は農業青年部を構成しておりますので、これも是非とも出席したいものです。長岡は出席します 開会閉会点鐘は、サムとスター。練習を含めて数回会場に心地よい鐘の音が響き渡りました。恒例の1分スピーチなどを行い盛岡の夜は更けました。



2026年3月20日、例会集合写真

東日本大震災から福島 YMCA 設立へ

盛岡 YMCA 総主事 濱塚有史さん

過去の災害支援と岩手県宮古市での活動】 YMCA は阪神・淡路大震災など、過去の災害でも全国からボランティアを集めて被災地を支援してきた歴史があります。東日本大震災の際、盛岡 YMCA はガソリンや宿泊場所がない困難な状況の中、岩手県宮古市の教会を拠点にして支援を始めました。避難所の運営サポートやガレキの撤去、仮設住宅での支援を通して地域との信頼関係を築き、子どもたちの運動不足を解消するためのサッカー教室や野外活動を10年間にわたって継続しました。

福島への支援と「福島 YMCA」設立の目標】 震災直後、盛岡 YMCA は宮古市での活動に専念しており、福島への支援には直接関わっていませんでした。しかし、広島(平和活動)や長崎、沖縄(基地問題)のように、「社会的に大きな課題を抱える場所にこそ YMCA が必要である」、という考えから、福島にも YMCA を作るべきだという声が上がりました。全国の YMCA は、福島の子どもたちの心のケアを目的としたキャンプなどを約1万人規模で開催し、将来的な拠点設立を見据えて「福島 YMCA」というプロジェクトを立ち上げました。

福島が抱える「正解のない」複雑な現状】 実際に福島で活動

第6回盛岡 YMCA 大会開催

2月20日、アイーナで開催。盛岡 YMCA 理事長、総主事、常儀委員、スタッフ、リーダー会、もりおかワイズメンズクラブ、総勢70名の出席でした。基調講演は、富山ワイズメンズクラブ「川渕映子ウィメン」。川渕さんはボランティア活動を国内外で長年行っており、ボランティアの真髄を極めています。お話からボランティアの必要性、あるべき姿など大いに学びがありました。

私たちのボランティア活動

富山ワイズメンズクラブ 川渕映子さん

国内外の被災地や貧困地域で30年以上にわたり支援活動を続けてきました。東日本大震災や能登半島地震といった国内の災害だけでなく、ベトナム、フィリピン、ネパールなど海外の厳しい環境でも、困っている人々に寄り添う活動を行っています。



川渕 映子さん

幼い頃に母親を亡くし、父親とも離れ離れに

や視察を行うと、そこには「一つの正解がない」複雑な現実があることがわかりました。例えば、放射能に対する考え方の違いから、「外は危険だから」と子どもを室内で思い切り遊ばせようとする団体と、「外遊びが必要だから」と放射線量の低い屋外で自然体験をさせようとする団体があり、それぞれが周囲から批判を受けながらも信念を持って活動しています。また、原発事故を起こした東京電力に対しても感情は複雑です。一生懸命に除染作業をする社員に感謝する人や、過去に経済的な恩恵を受けてきた人がいる一方で、決して許せないという思いを抱える人もおり、地元の人々の間でも答えがはっきりしない状況が続いています。

これからの若者に必要な「問いを立てる力」】 このような「何が正しいのかわからない(正解のない)状況」の中で生きていくために、これからの若者には「自ら問いを立てる力」が一番必要です。最初から正解が用意されているマークシート方式のテストを解くのではなく、複雑な問題に対して自分で考え、感じる感性を身につけることが重要です。そのために、盛岡 YMCA は若いリーダーや学生たちを福島に連れて行く「スタディツアー(研修旅行)」を企画し、現地の人々との交流を通して深く考える機会を作っていきます。

なりましたが、親戚や周囲の人たちの支援のおかげで無事に育つことができました。私は、直接その人たちに返すのではなく「自分を支えてくれた人への恩返しとして、世の中や社会に恩を返していく」という強い思いを持っています。若い頃に児童養護施設で働き、親からひどい虐待を受けて心と体に深い傷を負った子どもたちのケアにあたりました。

ベトナム戦争の直後、現地で難民キャンプを訪れました。そこで、親を亡くして泥水を飲んだり、空腹やケガで苦しんだりする子どもたちの姿を目の当たりにし、「絶対に戦争をしてはいけない」と強く心に刻みました。川口さんの支援の特徴は、「ただ一方的に物をあげる」のではなく、「相手の声を直接聞き、本当に必要なものを届ける」ことです。フリーマーケットの売上を使って小中学校を建設したり、フィリピンの台風被災地でサンダルや洋服を配ったり、ネパール大地震の山奥の村で雨風をしのぐためのトタン屋根を配ったりしました。

東日本大震災では、震災直後から宮城県石巻市などに50回以上通い、炊き出しや生活用品を届けました。被災者に「今、何が必要ですか?」と尋ね、次の週にそのリクエストされた物を持

っていくというきめ細やかな支援を続けました。また、少しでも現地の復興につながるよう、物資を無料ではなくあえてわずかな金額(米2kgで200円など)で販売するなどの工夫もしました。

能登半島地震では 過去の経験を活かしつつ、現場の状況に合わせた支援を行っています。例えば、避難所生活では温かい家庭料理が食べられないことに気づき、よくあるラーメンやカレーだけでなく、ポテトサラダや煮物などの手作り料理を炊き出しで提供して喜ばれています。

私は、支援において**物資以上に「心の交流」**が何よりも大切だと思っています。

また、世界中で争いや格差がある現状に対して、国境にとらわれない**「私は『地球人』です」**という意識を持ち、お金の損得よりも**「人が先(人間が一番大切)」**であるべきだと訴えています。このように、川口さんは自身の苦労した経験をバネにして、国境を越えて多くの人々の心と生活を温め続けている非常に愛情深く行動力のあるリーダーです

支援物資をあえて「有料」にした理由。東日本大震災の支援では、最初は物資を無料で配っていましたが、一部の人が欲張ってたくさん持ってってしまうという問題が起きました。そこで被災者からのアドバイスもあり、**あえて「10円」など少しだけお金をもらう形に変更しました。**これによって本当に必要な人にだけ物資が届くようになり、集まったお金は被災地の学校や幼稚園へ寄付して、子どもたちのために役立てました。

悩むのは「夜」ではなく「朝」。支援活動をする中で「物資が盗まれたらどうしよう」「足りなくなったらどうしよう」といった心配事は尽きませんが、私は、「夜は考え事をしない」と決めています。夜に考えると不安になりますが、朝起きて頭がスッキリしている

時に考えると、良いアイデアがひらめくそうです。

世界を変えるのは「教育」。ベトナムで物乞いをする子どもたちを見た私は、「この国を良くするには教育しかない」と気づきました。当時の現地の学校は、竹と泥でできていて3年で崩れてしまうようなものでした。そこで、**何十年も壊れない頑丈な学校を建設してプレゼントしました。**その結果、当時支援を受けた子どもたちが、今では現地の先生になったり、日本へ働きに來たりするまでに成長しています。

言葉の壁を乗り越える「度胸」と「心」。言葉が通じない海外でも私は単語と身振り手振り(ジェスチャー)でどんどんコミュニケーションをとります。ベトナムで地元のヤクザに絡まれた時には、**あえて「日本語で堂々と怒り飛ばす」**ことで相手をひるませ、ピンチを切り抜けました。また、子ども相手のコミュニケーションでは、「子どもは言葉以上に、大人の雰囲気(波動)を敏感に感じ取る」と考えて、誰に対しても心を開いて声をかけることが大切だと思っています。

誰かに褒められるためではなく「自分のため」。私は一時期、富山県知事選挙に立候補したことがきっかけで、メディアからの取材が一切来なくなった時期がありました。しかし、全く気にしませんでした。なぜなら、私にとって人助けは「人から認められたり褒められたりするため」ではなく、「自分がやりたいからやる(趣味のようなもの)」、だからです。足りない資金は自腹を切っても支援に行きます。私は「自分自身には絶対に嘘をつけない」、という強い信念を持ち、ボランティア活動を「1年に1回でもいいから、とにかく長く続けること(継続)」が何よりも大切だと思っています。

「フリテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

3月の出席率	5名	31%	ゲスト7名	メネット	1名		
メーキャップ	0名			3月切手	0g	累計	220g
3月のにこにこ	0円	累計	0円	富士宮焼きそば	0円	累計	0円
3月 石鯨	0円	累計	0円	りんご	0円	累計	0円
3月 献金	0円			ファンド合計	円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 本店営業部(店番号 001)普通口座 2391117

もりおかワイズメンズクラブ 代表 長岡 正彦

3月のハッピーバースディ 3/13 大関メン 3/22 魚住メン、3/24 山口メン 3/28 及川メン
お誕生日おめでとうございます。

オーガニック雫石2025年度報告会

2025年3月28日、雫石中央公民館で開催

盛岡YMCAから、農業青年部ジジモンリーダー、もりおかワイズメンズクラブより、長岡会長、加藤淳メン(オーガニック雫石にも在籍)3名参加し総勢30名の出席でした。

昨年の行動の記録を中心に報告、農業者の成功体験、失敗体験。ずはやってみて、失敗から学ぶという前向きな姿勢を大切

にしています。喜び悲しみの繰り返しの農業は決して楽なものではないと聞きましたが、意欲を持つての農業に前向きに取り組んでいると話されていました。

盛岡YMCAの企画で、雫石サマーキャンプの企画に全面協力した事、これは首都圏の子供たちのキャンプで7日間の開催でした。都会の子供たちが雫石の暮らしをどう感じるか、とても不安だったと話しておりました。コーディネーターは加藤メンでした。

キャンプの具体的な活動にはオーガニック雫石の農業者が全面協力、無農薬の野菜を収穫して持ち帰り、調理して食べる、そのまま食べる、きいろのすかを初めて見て、びっくり、その味にまたビックリ、子供たちの反応に目を細めて笑っていた、などのお話をいただきました。この成功体験を基に、オーガニック雫石に都会の子供たちのキャンプを毎年開催出来ればいいですね。最近少し下火になっているSDGsの話を加藤メンがしてくれま

福島スタディツアー実施

3月29日～31日、福島の実状を理解する目的で、「福島スタディツアー」を実施しました。主催は盛岡YMCAです。濱塚総主事、長岡メン、盛岡YMCAリーダー5名、筑波大学、宇都宮大学、東北大学、栃木YMCA、石巻広域ワイズから、清水メン、川上牧師、福島主のあしあとキリスト教会、大島牧師の参加でした。

事前の学びで、世界的な被ばく線量の許容値は年間1ミリSvです、しかし日本の基準では20ミリSv。20倍もの被ばく量で安全だと考えています。これでいいのでしょうか疑問です。飛び散った放射性物質を除染するといっても、山々や森は除染のしようがなく、そのままです。いつまでたっても山からの恵みは受けられません。そんな大熊町に行ってきました、

東京電力が大熊町に原発を作ると言って、大熊町に多額の保証料、政府も巻こんで助成金を投入。表現は下品ですが、札束で頬を叩いたのです。目がくらんだ大熊町の行政にも落ち度があったと思います。将来原発が爆発すると解っていたら、絶対に原発の誘致はしなかったはずです。その原発は爆発しました。広島や長崎の何倍ものセシウムを放出したのです。東日本は丸ごと汚染されました。住民は避難を余儀なくされ、大熊町は壊滅しました。津波の襲来で行方不明の方々を捜索することもできませんでした。

私たちが案内してくださったのは、大熊未来塾代表木村紀夫さんです。大熊小学校は子供たちの避難で、そのままの現状で現在も残っています。このまま震災遺構とするよう活動しています。



大熊町児童館とてつもなく立派です。

校庭は雑木と草に覆われ、遊具やサッカーゴールが草木の奥に建っています。樹齢100年のプラタナスの根元に立てかけた鉄の梯子は木に取りこまれ、一体化しています。景色は天空の城ラピュタの映像そのままです。木村さんの思いは、ここには子供たちの思い出がそのまま残っています。なんとかこの小学

校庭は雑木と草に覆われ、遊具やサッカーゴールが草木の奥に建っています。樹齢100年のプラタナスの根元に立てかけた

鉄の梯子は木に取りこまれ、一体化しています。景色は天空の城ラピュタの映像そのままです。木村さんの思いは、ここには子供たちの思い出がそのまま残っています。なんとかこの小学

編集後記

現在、4月2日、午前4時30分です。31日福島から帰り、最後の記事の編集が終わり、プリンテンが完成しようとしています。今月も31日まで活動が有り、3月号の発行が4月にずれ込みました。まあ、かんべんして下さい。

福島スタディツアーは、これから何回も実施していただきたい

した。SDGsは農業、漁業、林業等の一次産業が、元気に活動していないと、その上の目標はなにもできないという話、全くその通りだと納得しました。都合のいいところだけ切り取って企業のイメージアップだけ行っている企業はダメだと力を込めて話していました。それもその通り、納得です。

10時から午後2時半までの報告会でした。充実した時間をすごしました。

校を手入れして残したい。熱く語ってくれました。木村さんの次女が避難した児童館はとてつもなく立派な建物でした。地震後。おじいさんが迎えに来て、3年生の長女にここで待つように言い聞かせ、1年生の次女を車に乗せて、おばあさんがいる自宅に向かいました自宅に着いた時、おばあちゃんは避難済みでした。そこへ津波が襲ってきて、流されてしまいました。消防団が海岸付近を捜索開始しましたが、捜索中に原発が爆発。捜索中止のまま数年が経過。数年後の捜索で、おじいさんと次女の遺骨が発見されました。個別具体的な話に、胸が苦しくなり、涙が出ました。

原発は一度事故を起こすと人間の力では制御できない物なのでしょう。そんな原子力を使ってでも電気は必要でしょうか、木村さんは語ります。東京電力の社長は、「電気が無いと人は生きて行けない。」と言います。首都圏で使う電力をなぜ福島や新潟で作ったのでしょうか。東京湾沿岸に原発を作ればいい。人が多すぎるから造れない。事故が起きたら大変だ、事故は地方なら被害は少なくて済む。バカにしないで欲しい。同じ人間です、命の尊さは同じです。東京電力と日本政府の考え方は間違っていたのが証明されました。日本の技術に期待します、安全に電気を作る他の方法を確立して下さい。

今回の福島スタディツアーは、「忘れてたまるか、3・11」これは、2013年東日本区大会のメインテーマです。この言葉を再認識しました。私自身、時の経過とともに風化していました。風化させてはいけません。子々孫々にわたり、教訓を伝え同じ間違いを繰り返さないように、生きている私たちが伝えて行かなければなりません。



お別れの集合写真、ありがとうございました

盛岡 YMCA のリーダー達を全員連れて行きたいと思います。きっと人生観が変わると思います。

川渕映子さん(富山ワイズメンズクラブ)のパワーに圧倒され、オーガニック雫石の活動に感動し、風化していた「忘れてたまるか、3・11」を思い出し、改めてまじめに誠実に生きて行かなければならない事を思いだした3月でした。 長岡